



2014-15 年度 R I のテーマ「ロータリーに輝きを」
R I 会長 ゲイリー・C. K. ホアン (Light Up Rotary)

八戸南ロータリークラブ会報



●ガバナー 工藤 武重 ●会長 榎 清蔵 ●幹事 伊藤 斉 ●コミュニケーション委員長 米内 安芸

ホームページ : <http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/>

Email : hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

RI 第 2830 地区ホームページ : <http://www.rotary-aomori.org/2014/>

第 1898 回例会記録《ガバナー公式訪問例会》クラブ協議会
2014 年 9 月 11 日 (木) 点鐘 12:30
レポート No. 1331

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか



吉田 職業奉仕委員長

第 1898 回例会要旨

- ・会長要件
- ・入会式
- ・幹事報告
- ・各委員会報告
《出席・親睦・R財団》
- ・ガバナー講話



熊谷 S A A



《出席報告》桜田委員長

正会員数 43 名。本日の出席は免除会員 7 名を含む 30 名。出席率 75% です。前々会の例会は、メーキャップ 1 名、出席率 68% でした。

《新会員紹介》スポンサー 石橋会員



西村幸也さんをご紹介します。小中野で二代にわたって産婦人科をなさっています。昭和 26 年生まれです。幸也さんのおじいさん、私の叔父でもあります。西村喜一郎という方で八戸市の市章を作った方です。これだけは話してくださいとの事でした。

《会長要件》榎会長



今日はガバナー公式訪問という事で午前中、会長幹事面談を約一時間行いました。その後のクラブ協議会で八戸南ロータリークラブとしての一年間の抱負、方針をお話して頂きました。今回はガバナーより「あなたは一般の方を会員に勧誘するとき、どのように話しますか」という質問を頂き、皆さんそれぞれ発表し、その後ガバナーより適切なお指導を頂きました。委員長の皆さん今日は朝からありがとうございました。

南ロータリーは今年 40 周年という記念すべき年ではありますが、さらにガバナーノミニーとして長嶺会員が推薦されました。工藤ガバナーからもお祝いの言葉を頂戴しました。これを機会に私たちも益々頑張っていきたいと思えます。工藤ガバナー今日はよろしくお祈りします。

《入会式》西村幸也会員



ガバナーよりバッチ伝達

《自己紹介》西村会員

西村幸也と申します、ご紹介いただいたように昭和 26 年生まれ、八戸生まれの八戸育ちです。産婦人科を開業して 24 年になります。代々八戸の地で生業をしていますので今日お会いした皆さんの中に存知上げている方もいらっしゃるし、親戚の石橋さんもいてほっとしています。皆様のお仲間に入れて頂きロータリーの一員になった事を光榮に思います。よろしくお祈りします。



《幹事報告》伊藤幹事



・レターボックスの中に「ポリオが消えた日」というプリントが入っています。9 月 28 日 16 時 30 分～17 時まで RAB 青森放送で放映されます。ガバナーもご出演していますので是非ご覧になってください。

・R L I の案内が届いています。ローターアクト第 21 回年次大会の案内が届いています。東第 1・第 2 グループの合同 I M の案内が届いています。

・先週の幹事報告で理事会の報告を忘れてしまいましたが会報にプリントしてあります。

《ニコニコボックス》平光委員長

工藤ガバナーより頂戴しました。

榊会長：工藤ガバナー、村上ガバナー補佐、今日はようこそおいで下さいました。

伊藤幹事：工藤ガバナー、村上ガバナー補佐ようこそ。

小原直前会長：工藤ガバナーようこそいらっしやいました。本日はよろしくお祈りします。

赤穂副会長：ガバナー、ガバナー補佐よろしくお祈りします。

熊谷会員：カバナー、カバナー補佐ようこそ！！

大澤会員：工藤ガバナーようこそおいでくださいました。

長嶺会員：工藤ガバナー、村上ガバナー補佐今日はよろしくお祈りします。

鈴木会員：ようこそ！工藤ガバナー

清川会員：ガバナー、ガバナー補佐よろしくお祈り致します。

平光会員：工藤ガバナー、村上ガバナー補佐よろしくお祈りします。

石橋会員：ガバナー、ガバナー補佐ようこそ、西村幸也さん入会おめでとうございます。

本人誕生日：小笠原会員

結婚記念日：熊谷会員



《ロータリー財団委員会》清川委員長

榊会長、長嶺さん、鈴木さんより1,000ドルの寄付をいただきました。そのほか皆様より年次寄付、ポリオプラスを頂いています。今月のレートは102円ですが円安になっていますのでレートの安い今月中にお願いします。事務局の所でポリオプラスを受け付けていますのでよろしくお祈りします。

《ガバナー講話》工藤武重ガバナー

八戸南クラブの公式訪問は黒田先生のクラブという事で大変緊張しています。30クラブ程回りましたが、ガバナーに対しておもてなしするクラブが沢山ありました。皆さん色々なおもてなしの方法がありますが、一番は新入会員を入れて頂くことです。今日も八戸南クラブでお一方入りまして本当にありがとうございました。また、バッチ伝達にまで参加させていただきありがとうございました。私はこのバッチに思い出があります。前にもお話したかもしれませんが、黒田先生のお兄様がお病中に弘前大学に入院しておられて、その時私が弘前西クラブの会長でした。会長の時に黒田先生がメーキャップにいらっしやいましたが、たまたま私がバッチを付けていなかったのです。クラブの会長でバッチを付けていないのはお前だけだからと、わざわざ自分のつけているバッチを外して「これはポールハリスにつながるバッチなんだから、是非付けてくれ」と言われました。私はそれからバッチを沢山買いつべての洋服にバッチを付け、現在に至っています。

長嶺ガバナーノミニーのご輩出、本当におめでとうございます。心からお喜び申し上げます。本日は朝早くから公式訪問という事で、会長幹事面談、クラブ協議会とお疲れ様でした。平素よりロータリー活動にご協力を賜りましてありがとうございます。



特に、地区に役員を派遣して頂きまして重ねてお礼申し上げます。今年度第2830地区のガバナーを拝命した、弘前西RCの工藤武重と申します。私については週報にも自己紹介が必要ないほど詳しくご案内がありまして本当にありがとうございました。こういう週報を出しているのは2830地区では他にないと思います。今日は八戸南ロータリークラブ公式訪問という事で大変緊張していますがどうぞよろしくお祈りします。私は弘前市で三ツ矢交通というタクシー会社と自動車教習所を営んでいます。私が21歳の時に父親が亡くなりまして、早くに家業を引き継ぎました。会社の経営を任せられ今日に至っております。ロータリーに関していえば弘前西ロータリークラブのチャーターメンバーです。この弘前西クラブに入ったのは私が24歳の時で、1978年でしたけれども、大鰐クラブ、東北クラブそして弘前西クラブと新しいクラブが三つ出来た時です。弘前クラブの白藤さんという方が私の所に見えまして、ロータリークラブに入れてくれるというお誘いがあり、24歳の若さなのに入れてくれると言うのは不思議なものだなと、こんな機会はないだろうと案内された日に行ったら、その日が弘前西ロータリークラブの創立準備委員会の日だった訳です。それ以来36年間ずっと弘前西ロータリークラブの会員です。社会人として初めて入った団体がロータリークラブでした。極端な言い方をすれば社会人としての人生はロータリークラブと共にあったと言ってもいいでしょう。私が若い時から先輩方から教えられて参りましたのは「ロータリーの例会は人生の道場である」という事でした。色々な経験を持ったロータリーの仲間との出会いの中で人間としての「感性」「品性」が磨かれていく、このクラブの最も魅力的な事だと感じています。この度、多くの仲間にも恵まれて、こうしてガバナーにご推薦頂いた次第です。浅学菲才の身ではありますが、どうぞこれからの一年間よろしく申し上げます。

さて、7月からスタートしたこの公式訪問も32クラブ終了いたしました。クラブを訪問して様々なクラブの実態やご苦労されているお話を伺ってきました。率直に言ってどこも皆大変だと言うのが感想です。これは会員数の大小や所在している町の大小とは全く関係ありません。ともかく今まで訪問した各クラブとも、人口減少や少子高齢化、後継者不足といった共通の課題を抱えておられると言う事です。しかし、そのような中でも積極的に地域内の他の団体との交流を深め協力し合う事でクラブのパワーを維持し伸ばしている所もあります。特に若い世代との交流の中から将来のロータリアンの育成を図っているような例も見て参りました。困難な理由をあげつらう事は簡単ですが、そうやって外にベクトルを向かわせて、困難を乗り越えようとしているクラブの皆さんには心から頭の下がる思いがします。今日は八戸南クラブを訪問していますが明日以降もまだまだ公式訪問は続きます。実際こうして見て、聞いた実例をまとめ10月の地区大会では第2830地区の新たな方向を指し示す事が出来ればと考えております。

もう一つ公式訪問前半を終えて感じた事をお話させていただきます。それは資料の大切さという事です。公式訪問というのは地区の方針を皆さんにお伝えすることはもちろんですが、各クラブの活動や課題等をお聞かせいただく機会でもあります。ところがガバナー月信にも一部書きましたが公式訪問の際に各クラブからご説明を受ける資料がクラブによ

てまちまちなのです。これは最小限度でも良いので内容を合わせたほうが良いと思います。ガバナーの公式訪問が早いから活動計画書が出来ていないと言うクラブが最初のころありました。しかも事務局があるにも関わらず出来ていない。地区協議会の時にガバナー公式訪問のリクエストを取ったにも関わらず、ガバナーが早く来るから間に合わなかったというお話がありました。何故かといいますと別にガバナーの為という事ではありません。資料を整理し残すと言う事は後に続くロータリアンの為に是非とも必要なことなのです。各クラブとも出来れば共通のフォームでクラブの活動の歴史を記録し、後世に残し伝えて行くことを私は提案したいと思います。今日はせっかくの機会でありますので改めて、直接私が日頃ロータリーについて考えている事を含め、ガバナーとしての所信をお話させていただきたいと存じます。まず「ロータリーの原点とは何か」という事について。ポールハリスが初めてロータリークラブを設立した時目指したのは、高い倫理観を持った職業人の集まりでした。つまり自らの職業を通じて社会に貢献する事がロータリーの発端だったのです。現在でもクラブ奉仕、社会奉仕、青少年奉仕などと



並んで職業奉仕という言葉は使われています。今一度、職業奉仕とは何かを考えてみてほしいものです。一般的に誤解されているものの中に、たとえば弁護士が無料法律相談を行う事や、バス会社が身体障がい者の為に無料の送迎バスを出すことなどが職業奉仕だと言う考え方があります。しかしこれは職業を生かした、言葉は適切かどうか分かりませんが、職業を利用した社会奉仕であって、元来の意味での職業奉仕ではないと私は考えます。職業奉仕とは先程言いましたように高い倫理観を持って自分の職業を遂行する事に他なりません。高い倫理観とは「損」か「得」かを価値判断の基準に置くのではなく「悪」か「善」かで判断して行動する事です。職業の他に何をやる、或は職業を通じて特別なサービスをするのではなく、職業そのものが社会の役に立っているという誇りを持って日々の仕事に邁進すると言う事が、職業奉仕であると私は考えます。もちろん職業を生かした社会奉仕、青少年奉仕などを否定するものではありません。しかしまずは自分の職業が健全に営まれ社会の人々に必要とされると言う事が必要なのだと、繰り返し申し上げたいと思います。次にその他の奉仕について考えてみましょう。ロータリーとは今さら言うまでもなく奉仕の理想を追求する団

体です。「ロータリーにもし善意がなかったならば社会奉仕は単なる施しであり、職業奉仕は単なる金儲けであり、国際奉仕は外交に過ぎない」という言葉もあるように、その理想はまさしく善意に他ありません。善意とはあくまで個人に帰属する感覚です。一人一人の心で育まれる感情です。つまりロータリーの奉仕の原点は「We Serve」ではなく「I Serve」という事です。クラブとして何か奉仕活動を行うのではなく、ロータリアン一人一人が奉仕の理想を持って生きる、そのような人を育てる、また、奉仕の理想を共有する仲間を作る、それがロータリーです。良い例がエンドポリオ運動です。一人一人のロータリアンの情熱がビルゲイツを動かし、世界中の人々の心を動かし、今では大きな力となって、その目的を実現いたしました。繰り返します「We Serve」ではなく「I Serve」、そこが他の団体との一番の相違点だと思います。ぜひ新年度は奉仕の意味を各クラブで話し合ってみて頂きたいと思います。

2014-15 年度 ゲイリーCKホワン会長の方針は、「Light up Rotary ロータリーに輝きを」です。一人一人の小さなろうそくの灯も、集まる事によって大きな輝きになる。一人一人のロータリアン、一つ一つのクラブの力は小さくても、地区という組織を経て、国際ロータリーの名のもとに結集したとき、何物にも代えがたい大きな力になるのだということを、表している言葉だと思います。私は、今述べたようなことを踏まえ、地区の方針として、「Cheer up Rotary 元気なロータリー」を掲げました。さらに、各クラブにおいては、諸問題に力強く立ち向かっていただくために、「Stand up Rotary 立ち上がれロータリー」を念頭に活動をお願いしたいと思います。「Light up Rotary」「Cheer up Rotary」「Stand up Rotary」この三つのUPを、この一年間の私たちの指針と致します。「Cheer up Rotary」とはすなわち会員が集まってくるロータリーの事です。会員数の増減はまさに元気のバロメーターです。元気な所へは人が集まる、人が集まるとさらに元気になる、このプラスのスパイラルをぜひ生み出してほしいと思います。会員増強につきましては地区運営方針の中で具体的に各クラブ純増1という数字を挙げました。先ほどの協議会でお話を伺いました所、八戸南ロータリーさんは現在の会員数を50人にするというような目標を掲げておられるのでよろしくお願ひしたいと思います。それにはまず今いる会員が退会しない事です。皆さんが声を掛け合って退会者を出さない、これが基本です。そうすればあとは会長や他の役員が一人新入会員を見つけてくれば良い、しかし、実際は高齢その他の理由で退会される会員もいらっしゃるでしょう。ですから、やはり会員増強には会員全員で取り組まなければいけないと思います。もう一つ会員を増やす為の具体的なヒントを挙げてみたいと思います。ロータリーとは何かという事を皆さんお一人お一人がきちんと言葉でいい表すことが出来ますか、それも簡潔にです。少なくとも一般

社会では自分の考え、自分の立場などを明確に、的確に言葉に置き換えなければ相手には伝わりません。ロータリーの会員増強も同様です「ロータリーとは何か」という事をしっかりと伝えなければ人の心を動かすことは難しいのではないかと思います。10人いれば10人それぞれのニュアンスが違います。ロータリーの歴史的背景を語る人もいれば、現在の組織について語る人もいる、それはそれで結構です。肝心なことは役員だけでなく会員一人一人が自分の言葉でロータリーを説明できるようになることなのだと思います。但し明らかに間違っただけでなくロータリーの品格を落としかねないものはいけません。そういう事の無い様この命題についてクラブ内で充分に話し合っていたらと言うのが今日の趣旨です。明快な言葉で積極的に声を掛け会員の拡大を図っていきましょう。ロータリークラブの在り方も時代と共に大きく変化して来ています。誤解を恐れずに言えばかつてはその地域を代表する企業経営者の集まりでした。だからこそ「一業種一人」といったルールも厳然とあったのです。しかし今はロータリアンの立場も多様化して来ています。かつてのルールには収まり切れない程の職業、職種が世の中に溢れかえっています。そうであれば私たちも旧来の慣習に縛られずに地域の状況に合わせたクラブ独特の勧誘方針を立て、実践する必要があろうかと思います。たとえば純増1を目指すための方向の一つとして、地区要覧に女性会員を増やそうと書きました。男女共同参画の時代にことさら女性会員という言葉を使う事はあるいは的確ではないかもしれませんが、しかし、現実には各クラブの全会員に占める女性の割合は決して多くはありません。はっきり言えば他の組織に比べ明らかに低いと言ってもいいでしょう。社会のあらゆる場面での女性の活躍を考えれば、ロータリーの中にそのパワーを積極的に取り込んでいくことは会員増につながると同時に会の活性化にもつながる事を、ここで強く訴えたいと思います。そのほかの地区運営方針につきましては地区要覧に掲載しております。じっくりとお読みください。

最後にこれだけは言っておきたいと言う事をお話します。それは「今を変えて、未来を拓こう」という事です。これは地区要覧にも書きましたし、そのほかにも機会があるごとに訴えてまいりました。ロータリーはどちらかというと、伝統と歴史を重んじるという傾向が強い団体です。国際組織でもあり、100年以上にわたる歴史があります。先人たちが築いてきたルール、仕組み等は、当然、尊重されるべきものです。しかし、長い歴史の中で、社会の情勢も変化し、それに従って、地域におけるロータリーの立ち位置もまた、変革を余儀なくされていることも事実です。新しい時代に適応したロータリーを築くためには、一つ一つのクラブが、一人一人のロータリアンが、内なる呪縛にとらわれず、外に向かって発信していく。その行動こそが、元気なロータリーを創り、ロータリーに輝きをもたらすという事を、強く訴えたいと思います。実際に冒頭で申し上げましたように、こうして各地を回ってみますと、どこへ行っても人口減少、高齢化、町の活力の減退といった悩みが聞こえてきます。この声は人口規模の小さい町になればなるほど、より深刻なものようです。中央では随分と景気が回復しているようなニュースも飛び込んできますが、残念ながら私たちの暮らす地方経済まではその恩恵はまだまだ波及して来てはいません。しかし、そういう時だからこそ、ロータリアンが、クラブが率先して町の元気を創出する、

そんな心構えが必要だろうと思います。ひたいを寄せ合って不景気をこぼし合うよりも、ロータリーが町おこしの中心となって汗をかく、そのような姿勢が求められているのではないかと思います。その為にはまずロータリーが変わらなければなりません。町の商店街の親父の集まり、あるいは中小事業者、自営業者の集まりから脱却し、もっと広い視野に立って会員を増やし、周囲を巻き込みながら活動の幅を広げていく、その活力が町の元気の源になるものだと私は確信いたします。「Cheer up Rotary」元気なロータリーを創りましょう。「Stand up Rotary」その為に未来を切り開くべく立ち上がりましょう。



《質疑応答》

Q. 石橋会員

地区大会の日程についてお聞きします。例年だと土・日だと思いますが今回、金・土にしたのは何か目的があつての事でしょうか。

A. 工藤ガバナー

大会の二日目と言うのは見る影もなく人がいないので、これを何とかしようと、地区の幹事会で話し合いR I会長代理にもあまり見せたくないことから一日短縮しました。本来は金・土・日の三日間で行っていましたが日本全国の同期のガバナーにお聞きしたところ、ほとんど土・日か金・土の所が多かったのでそのようにしました。

Q. 近藤会員

先程のカバナーのお話でロータリーは親睦、職業奉仕という事をお話されましたが、最近のR Iの傾向は職業奉仕が軽視されている感じがしています。先ほどのお話にもありましたが「一業種一人」も崩れてきています。「職業宣言」が「行動規範」というように変わってきて、現在職業人でなくても家庭の主婦でもロータリアンになれるというような事になっていますが、ロータリーが始まったそもそもの「超我の奉仕」が軽んじられて、会員増強、会員増強とガバナーが先程お話したことを新会員、若い方に入ってもらふ時にそういう事を話して、はたしてロータリーに入会してもらえるかどうか疑問に思いました。

A. 工藤ガバナー

私の講話の中で話した「今を変えて、未来を拓こう」と「今を変えて、未来を築こう」という事はですね、私は20世紀のロータリアンだと思っています。20世紀のロータリアンにはルールがあったのですが今は21世紀になって久しいですからロータリーが多様化してきている。ロータリーが多様化している中でクラブ奉仕をしながら職業奉仕をして昔のロータ



リーに帰った方がいいのではないかと私は実際思っています。但し、国際的な環境が変わってきているのでロータリーも多様化しなければならない。一日 200 円、一日 300 円、一日 500 円のビールを我慢し

て1年間で集まるお金が18万円になります。言い方は悪い、けれどそのくらいのお金で国際奉仕、社会奉仕、職業奉仕、クラブ奉仕が出来る団体はそんなにありません。価値観に共鳴した人が入ってくることに於いては現在のロータリーは「ウエルカム」状態になっている。先ほど話したように商店街の親父の集まりから脱却しないと中々若い人を取り込んで行くことは出来ないと私は思っています。500円が高いと言うよりは200円出すと月6,000円、年間72,000円で国際奉仕、社会奉仕が出来る団体というふうに考えて頂きたい。それがEクラブであり衛星クラブであり、様々な職域、専門職を通じた人間の集まりと考えております。そしてまた、地方や地域に密着したロータリークラブは、クラブ奉仕を中心に20世紀型のロータリーをやっていけばいいのではないかと思っています。

クラブ協議会

